

今回ご紹介するのは、子ども達に将棋の楽しさを教える、日本将棋連盟
岐阜棋友会西濃支部会長、岐阜支部連合会
幹事、池田町萩原在住の笹井義隆さんです。



◆将棋を始めたきっかけ、そしてこれからの子ども達に何を伝える

関西から岐阜での暮らし、仕事以外で地元の方々とは声を交わす事のない日々の中、岐阜市内で知った「将棋教室」。地元の方々との交流手段として始めた将棋ですが後に私のライフワークとして大切なものとなりました。

縁あって池田町に住む事になり「ねんりんピック」文化交流、将棋部門、岐阜代表として3度出場。全国から集まる人々や開催地の方々との交流等、岐阜棋友会西濃支部の名の下、将棋を通して地域の人々との出会い全てが私の財産となっています。これらの事柄を含め、池田町の子ども達に「礼」に始まり「礼」に終わると伝えられている礼儀を重んじる将棋を通して、家族や地域の人との触れ合い、学ぶ事の楽しさ面白さを発見できるきっかけと成りえたら、それが私の生きがいであり使命です。現在当道場では「プロ女流棋士」を目指して日々研鑽中の小学校6年生の娘がいます。どうぞ「我も!」と思う子ども達家族や地域の方々と共に成長し住み良い池田町を作りあげましょう。

老人力に更なるパワーを!



右から
棋士 杉本昌隆 七段
笹井義隆 会長
藤井聡太 四段



右から
6年生 伊藤優菜 支部会員
笹井義隆 会長
林晃弘 支部会員



道場

編集後記

梅雨明けとともに暑さ厳しい夏がやってきました。全国的に見ても異常気象による大雨が続き、九州地方を襲った河川決壊による甚大な豪雨災害は多くの生命、財産を奪いました。心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧復興を願うものであります。今回の広報の中で東日本大震災で甚大な被害を被った福島県国見町への議員研修を二泊三日で地元議員様、役場職員様とも交流も深めながら行ってまいりました。今回の研修内容は災害が発生し、この六年間の長い道のり復旧復興半ばではあると思いますが、町としての復興にむけての取り組みを伺いました。又、庁舎の建設としては防災拠点も兼ね備えた新庁舎で被災した自治体庁舎としては復興第一号、町民が集う未来に向けた森の庁舎が完成をしたそうです。今回の九州豪雨災害復旧復興に向けては大変な労力、時間がかかりますが頑張ってくださいと思います。そしてこの地域でも他人ごとではありません。東南海地震が大変懸念をされています。ほかの地の災害を最大の教訓として私たち議会としてもしっかりと、行政に訴えて行き、安心安全な街づくり頑張りて行きたいと思っております。

(議会広報編集委員 重綱秀次)